

ステップ1

大切にしたいこと

地域での役割づくり

違った能力を生かし役割を持つことで「生きがい」に／役割があることで地域社会とつながる／役割が発揮できることにより人は変わることができる

参加

できることから少しずつ／気軽に参加／参加しやすくなるようハードルを低くする／人がつながり、活動を続けてきた人たちの負担が軽くなる

地域への愛着

好きだから知る、知るから助け合う／身近な「ひと」や「まち」への愛着がわくことで、お互いの支え合いにつながる／自分たちの地域を誇れる住民に

人づくり

すべてにおいて必要なこと／相手を思いやる気持ち、優しい気持ちを持つ／つなぎ役である「コーディネーター」からカタチにするプロデューサーへ

つながり

普段のつながり、気にかけてあげること／人と人、人と地域、行政と地域…さまざまなシチュエーションでつながる／つながりを次代へ引き継いでいく

仕組み（づくり）

活動の援助、情報の共有／地域（福祉）活動を実践していくためには、進めていくための仕組みや組織の力が重要

ステップ2

共通キーワード

まちの地域福祉 “ここが気になる”

●社会参加や役割発揮のための人づくりや参加の入口づくり

仕事を通じて社会とかかわりがあった世代には、退職後、これまでに培った知識や経験を生かし、これからは地域活動を通じて社会とつながりを持ちたいというニーズがありますが、そのきっかけをつかめていません。また、若い人が活動に参加することへの期待は大きいですが、その実現には、入口に少し工夫が必要です。
今まで地域づくり活動や福祉活動にかかわりがなかった人に対して、それぞれ持っている「やりたいこと」や「関心事」に合わせ、多様な参加の切り口をつくっていくことが大切です。

●組織（主体）の意識や活動の進化

地域住民自治組織をはじめとした市内のまちづくり活動団体においては、役員のみ手不足や、シニア世代における就労期間の長期化などの背景から参加者の減少、組織の硬直化、一部の活動者の負担増、事業のマンネリ化などの状況が見られます。
新たな主体（NPO法人など）の存在やかかわりが期待される中、「円卓会議」（多様な主体が考え話し合う場）もうまく機能しておらず、どのように組織（主体）のリニューアルや事業の「たなおろし」をしていくことができるかを考える必要があります。

●地域の問題解決のために必要な情報の共有

市内では、さまざまな分野の主体や地域が行う取組、行政や社会福祉協議会が実施する制度やサービスのメニューがある一方で、その情報が十分に市民に行き届いていないようです。
また、個別ケースから把握できる暮らしの中での課題を積み上げると、「地域課題」として見えてくるものがあるはずですが、これを地域づくりや地域の福祉活動に十分に生かしていません。こうした情報を必要な時に必要な所（人）へ提供したり、共有したりできるように仕組みを整えておく必要があります。

●社会的孤立を見逃さないためのかかわり方

高齢者の一人暮らし世帯の増加に加え、子どもの貧困、生活困窮者（世帯）、ニートやひきこもり（長期間就労していない人）など、地域社会と切り離されがちな人々が増えつつある中で、こうした人々を地域全体で見守るとともに、どのようなアプローチのきっかけを見出し、どうかかわり続けていくことができるかを考える必要があります。
また、障がいのある人（身体、精神、児童含む）の支援については、制度の狭間があるため、それを埋めるためには地域と行政・社協との連携が欠かせません。

●多様な主体の強みを生かした新しい支え合い

人々の生活スタイルや価値観が多様化、高度化、複雑化し、地域福祉のベースとなる「人間関係」も希薄化しています。特に、都市部では、町内会や自治会に加入しない人も増えてきました。
こうした中、さまざまな考え、課題やニーズに応えていくためには、NPO法人など新たな主体の存在や、他分野の活動組織・団体との連携を視野に入れ、新しいつながりの形を考えていくことも大切です。

ステップ3

こんなことに取り組んでいかなければ！

★「ゆるやかな」参加の仕組みづくり

「無責任」「ちょっと」「気楽」な参加の積み重ね サポーター制度、単発クラブ

★参加者の掘り起こし

埋もれている人、市内企業への呼びかけ 有償ボランティアの理解、「できる」ことの棚卸し

★共通の興味、関心にあわせたマッチング

入口と出口の工夫、ハローワーク的なもの

★学生・活力ある高齢者の参加促進

大学と連携した単位互換制度 定年退職者への適切な情報提供

★組織の未来像づくり

ファシリテーター配置、組織内での対話促進

★組織役員の役割、任期の見直し

現役世代のかかわり方、役割 任期・定年設定

★事業のたなおろし

P D C A サイクルを活用した事業の優先付け 機能する円卓会議の定着化 「情報交換会」のバージョンアップ

★わかりやすい情報の窓口づくり

キャッチコピー ex「たちまち社協へ！」

★多様な情報ツールの研究と活用

マーケティングと必要なメディアのマッチング

★相談ニーズの実態把握、データ化

「あるある話」を集め、受信者目線に整理

★拠点における情報一元管理

市民センター、社協

★日常的な啓発活動のすすめ

本人の意識の壁、社会の壁の排除

★コミュニケーション手段の工夫

「ネット110番」の開設、声かけ・ことばかけなどのコミュニケーション・トレーニング

★要支援者情報の「見える化」

地域マップづくり

★新たな支援メニューの開発

トワイライトステイのモデルづくり 発達障害の子どもたちとけん玉体験

★つながりの「チャンネル」づくり

SNS、スカイプなどITの効果的活用

★CSRの普及・啓発

企業の社会責任の正しい理解 中間的就労受入などによる企業のメリットづくり

★NPO活動と支援のマッチング

活動人材の確保×生活訓練の場

★ソーシャルビジネスへの転換

セミプロが活躍する場、継続的支援に向けた仕組み

ステップ4

主体・役割（強み）

地域住民自治組織

- ・地域住民への呼びかけ
- ・地域情報の「見える化」

NPO法人

ボランティアグループ

市民活動団体

- ・企画力、行動力の発揮
- ・専門的なノウハウを提供

民生委員・児童委員

- ・高齢者などへの情報伝達
- ・行政へのつなぎ

企業・事業所（スーパー、商店）

- ・従業員への啓発
- ・スペースの提供や活用

商工会議所・商工会

- ・地域貢献活動の会員への啓発
- ・創業支援

市役所・支所

- ・地域主体への働きかけ、支援
- ・きっかけづくり、バックアップ
- ・円卓会議など対話に参加
- ・認証の仕組みづくり

市民センター

- ・学習機能の発揮
- ・団体同士のつなぎ

市民活動センター

- ・ネットワークづくり
- ・多様な主体同士のマッチング

社会福祉協議会

- ・学生のボランティア活動支援
- ・相談に関する中間支援機能発揮
- ・必要な情報の発信
- ・セミプロの発掘、養成

